

三沢市協働のまちづくり市民会議第1回会議概要

日 時：平成21年7月10日（金）

13時～16時

場 所：本館4階 大会議室

欠席者：中屋敷委員

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 市長あいさつ（代理 副市長 大塚和則）

4. アドバイザー紹介

司会の菊池課長がアドバイザーである前山教授の経歴等について紹介した。

5. 委員自己紹介

それぞれ、自己紹介した。

6. 事務局紹介

司会の菊池課長が、担当者について紹介した。

7. 講話

アドバイザーである八戸大学教授の前山総一郎氏が、「いま、なぜ協働か」というテーマで配付したレジュメに沿って講話された。

8. 事務局説明

市民会議を立ち上げた経緯の説明と、これからの会議の進め方等について市の案を提示し、意見を求めた。

9. 協議事項

役員の選任について

協議の結果、事務局指名により、会長に山村義一委員、副会長に名久井正廣委員に決定した。

委員会の設置について

協議の結果、各委員会の振分けについては事務局案(別紙1)のとおり決定。

各委員会会長・副会長については、互選により別紙のとおり決定した。

これからの会の進め方について

協議の結果、原則として毎月中旬の水曜日に開催することとした。

次回(2回目)会議を8月5日の午後2時からに決定した。

10. 質疑応答

Q：マッチングファンド方式について、行政と団体の負担割合が50%となっている場合の労働力は、金額に換算しないのか？

A：アメリカでは、労働力も金額に換算している。日本の例では、ボランティア労働（行政は材料費負担で、住民は労働力）ということが多い。

Q：協働とは、行政と市民が対等の立場で、ということですが、私たち市民は今こうして協働について勉強しているが、行政職員に対しての教育はどのようなになっているのか？八戸市の例を前山教授に、三沢市に関しては事務局に聞きたい。

A（教授）：職員を対象にした協働のマニュアルを作成した。
主査クラスの職員を集めてワークショップを開催した。
地域担当職員を各コミュニティに配置した。

A（事務局）：数年前に職員を対象に研修会を開催したが、機会をみてまた研修会を開催したいと考えている。また、三沢市も行政連絡員という形で各町内会に職員を配置している。

Q：クオリティオブライフについて聞きたい。

A：道路を作ること等に関して、住民の分からないところで行政が造るのではなく、暮らしやすさを考えながら自分たちの生活に必要なものを造っていくという考えのことを指して言っている。

11．閉会